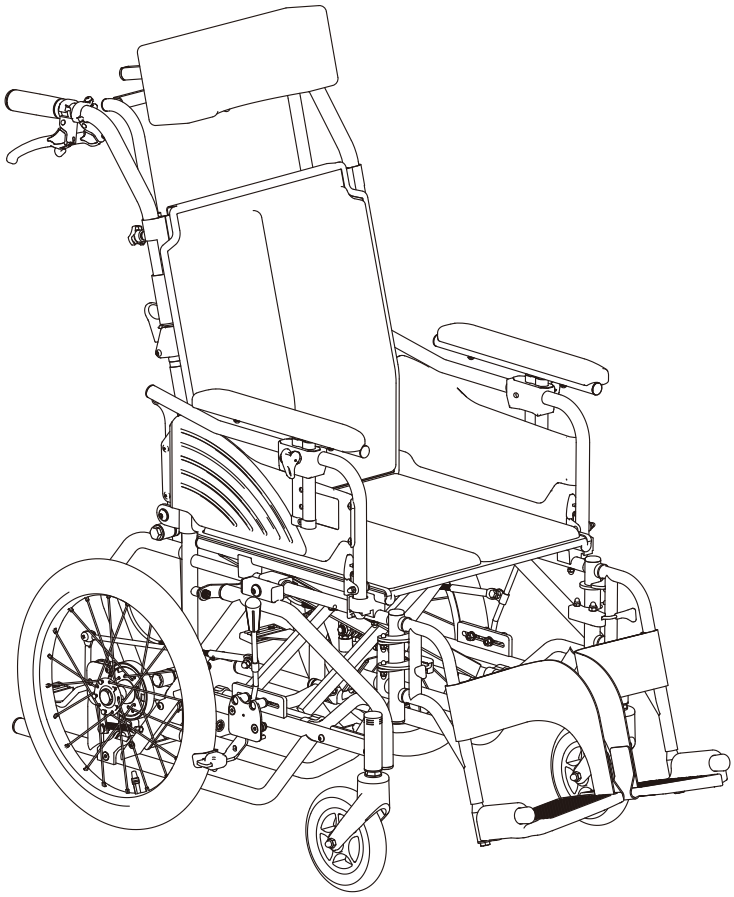
ティルトシリーズ

取扱説明書

MX-Ti　MP-TiF HG
MX-Ti DX　MP-TiF VL



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目　次

使用目的・特徴 …… 2
はじめにご確認ください …… 2
安全上のご注意 …… 2
各部のなまえ …… 6
使いかた …… 7
- ブレーキのかけかた …… 7
- 車いすの開きかた …… 8
- 車いすのたたみかた …… 9
- シートの取り付け・取り外し …… 10
- 乗り降りのしかた …… 11
- アームサポートの跳ね上げ（ウイング機能） …… 12
- フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能） …… 13

各部の調節のしかた …… 14
- アームサポートの高さ調節 …… 14
- フットサポートの高さ調節 …… 14
- シートの角度調節（ティルト機能） …… 14
- 転倒防止装置の取り付け・取り外し …… 15
- ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節 …… 15
- バックサポートの張り具合調節 …… 16

使用上のご注意 …… 17
- 保守・点検 …… 17
- 消耗品、交換部品の確認 …… 17
- 走行上のご注意 …… 17
- 段の上がりかた …… 17

困った時には …… 19
仕様 …… 裏表紙

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべてはいっていることを確認してください。

- 車いす本体
- 取扱説明書
- 工具（スパナ 2ケ　六角レンチ 5㎜・4㎜・3㎜ 各1ケ）
- 保証書
- アウター背シート
- アウター座シート
- レッグサポート
- ヘッドサポート

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
⃠	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

⃠ **スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **自走用であっても自力で操作不可能な坂道等では、介助者を伴ってください。**

⃠ **乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。**
駆動輪・主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

❗ **急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。**

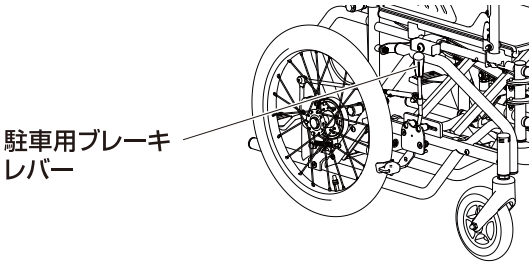
❗ **通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。（MX-Tiのみ）**
後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。**
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

⚠警告

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。(MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL))
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

ティルト操作は必ず介助者が行ってください。

ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。
転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。

ティルトさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故につながる恐れがあります。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

走行中は、ウイングアームサポートの跳ね上げ、フットレッグサポートの開閉、ティルト・リクライニング操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

ウイングアームサポートを跳ね上げた状態で走行しないください。(MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL))
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

ウイングアームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。(MX-TiDX、MP-TiF(HG/VL))
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。(MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL))
事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。(MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL))
事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠警告

乗り降り時は、シートを水平の位置にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。
車いすが動きだし大変危険です。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損するおそれがあります。

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。

⚠注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

フレームに最大体重（積載物も含む）が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。

車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。

使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行わないでください。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。

背折れジョイント、ウイングアームサポート、フット・レッグサポート、ティルトの可動部等に指や身体をはさまないよう注意してください。

走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。

介助者は、ティルト操作をする前に「倒します」「起します」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が押し手にかかりますのでしっかり支えてください。

使用する前に主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。（MX-Ti DXのみ）

フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤのの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。
また、エアタイヤの場合、空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。
破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

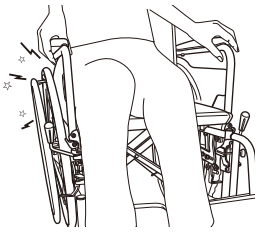
⚠注意

フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出さない位置まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。(MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL))
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。
車いすの破損や故障の原因となります。



ロックンブレーキを他の車いすに取り付けて使用しないでください。
(MX-Ti、MX-Ti DX)

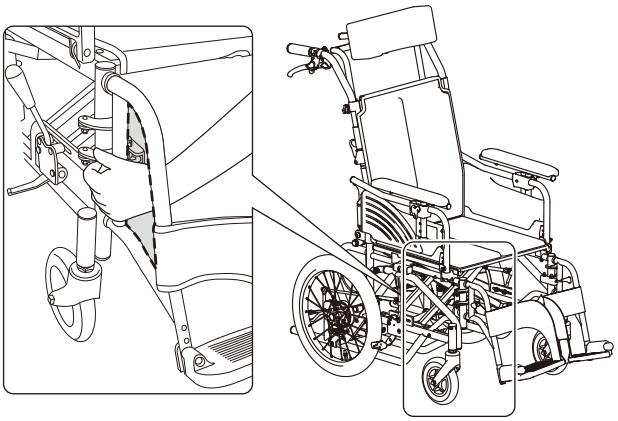
ロックンブレーキはタイヤの空気圧低下時等の制動力を保証するものではありません。使用前にタイヤの空気圧等の点検を行い、必要に応じて空気の補充をしてください。
(MX-Ti、MX-Ti DX)

段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。



バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

各部のなまえ

前側

ヘッドサポート
手押しハンドル（グリップ）
バックサポート/
背アウターシート
サイドガード
シート/座アウターシート
主輪
フット・レッグサポート
レッグサポート
駐車用ブレーキ
フットサポート
キャスタ
フット・レッグサポート回転レバー
（MX-Ti DX、MP-TiF（HG/VL））

後側

ヘッドサポートフレーム
アームサポート
アームサポートロックレバー
（MX-Ti DXのみ）
制動用ブレーキ（色：黒）
ティルトレバー（色：オレンジ）
背折れジョイント
ポケット
足踏みブレーキ
転倒防止装置
（MX-Tiのみ）
連結棒
アームサポートフレームロックレバー
（MX-Ti DX、MP-TiF（HG/VL））
ティッピングレバー

※イラストはMX-Ti DXです。

使いかた

ブレーキのかけかた

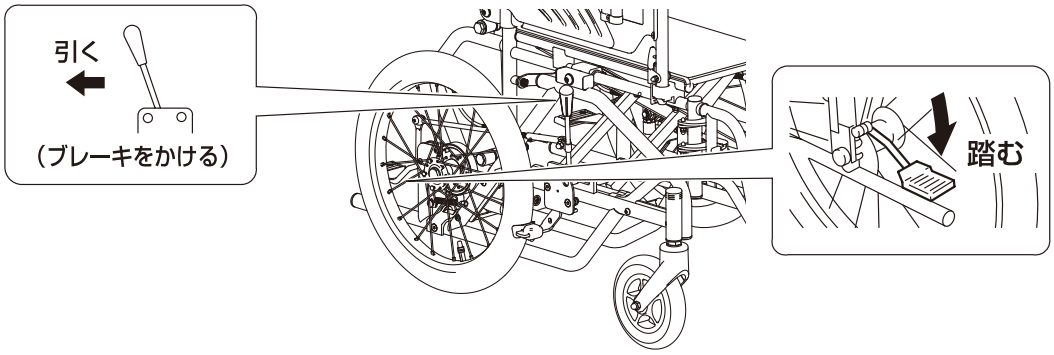
⚠警告	・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。
駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

● 足踏みブレーキの使いかた

介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。
（駐車用ブレーキがかかります。）
足踏みブレーキを足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。

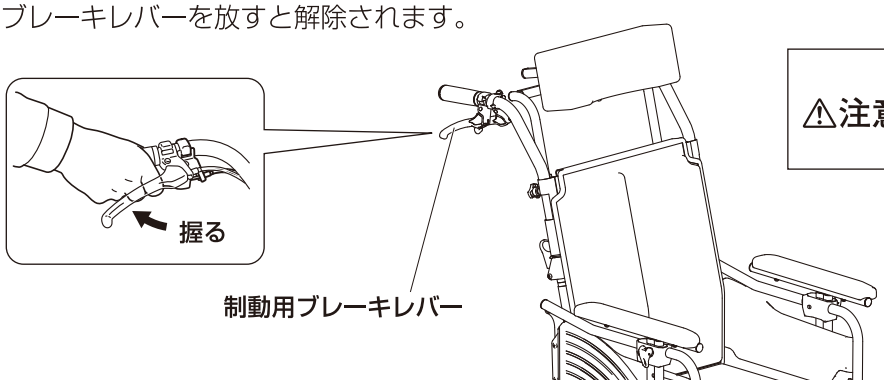


● 制動用ブレーキのかけかた

⚠危険	・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠警告	ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。 （交換の目安：1年に1度）

車いすの開きかた

⚠注意	・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 ・車いすを開くときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

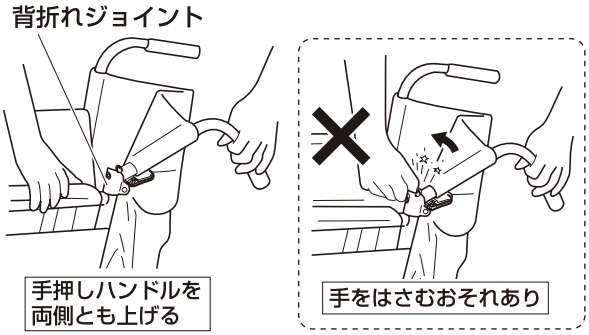
● 開きかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

＊背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

＊このとき、背折れジョイントに手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

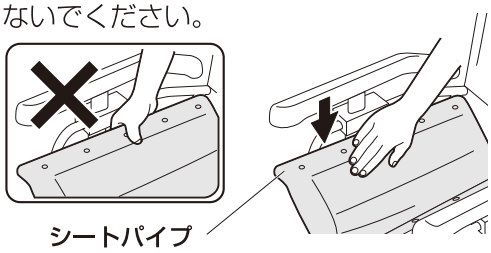


3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体を浮かせながら左右に開きます。

4 シートパイプの両端を手の平で押し下げます。

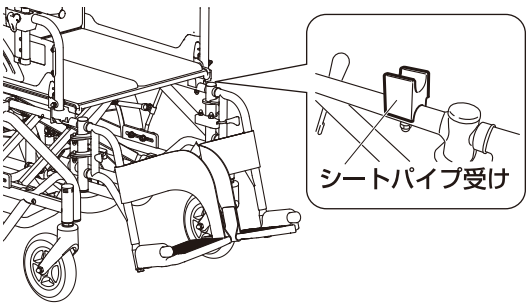
＊シートパイプを握らないでください。

＊シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



5 シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとはまっていることを確認します。
（MX-Ti DX、MP-TiF（HG/VL））

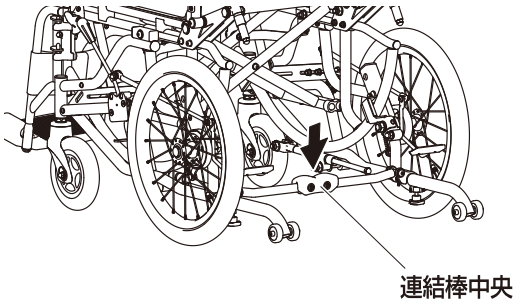
＊しっかりはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



＊シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

＊左右のフレームがねじれていると、シートパイプをはめにくい場合があります。そのときは、ティルトレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

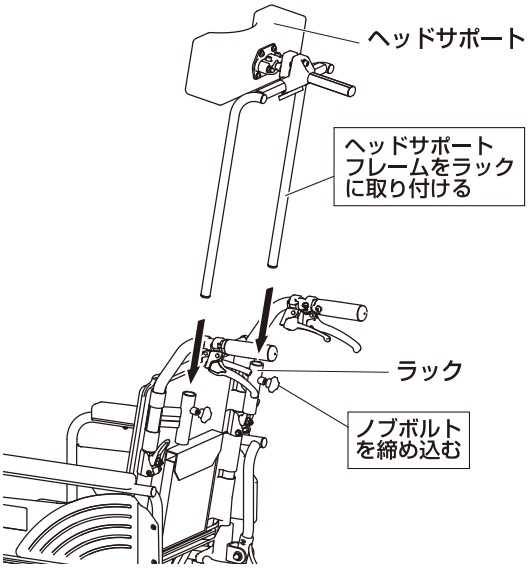
6 主輪内側の連結棒の中央を持ち、ロックするまで押し下げます。



＊連結棒は足で踏まないでください。破損する恐れがあります。

7 背アウターシートと座アウターシートを取り付けます。（P.10「シートの取り付け・取り外し」参照）

8 ヘッドサポートを取り付け、ノブボルトを締め込みます。（P.15「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照）



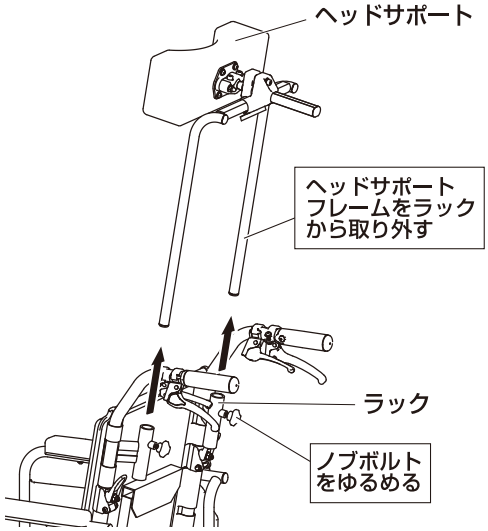
車いすのたたみかた

⚠警告	・アームサポートを持って車いすをたたまないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

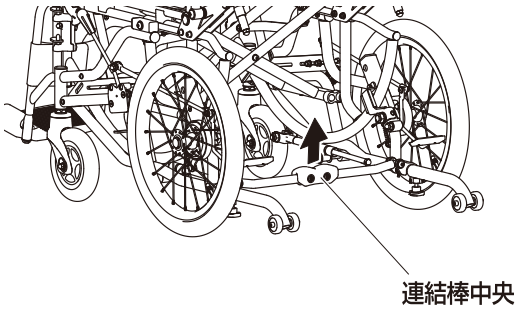
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 ティルトを元の角度に戻します。

3 ノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを取り外します。（P.15「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照）

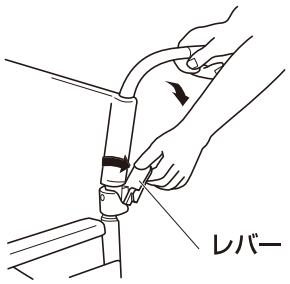


4 主輪内側の連結棒を上に持ち上げ、少し折り曲げます。

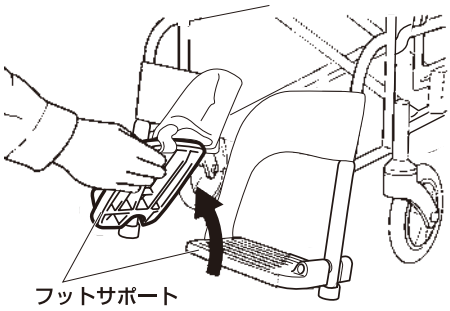


5 背アウターシートと座アウターシートを取り外します。

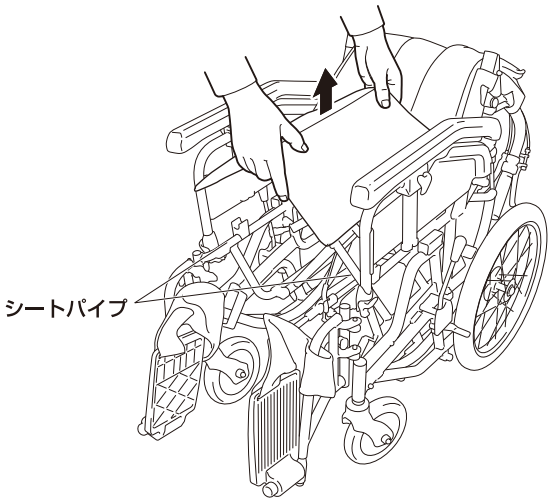
6 レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



7 フットサポートを両側とも上げます。

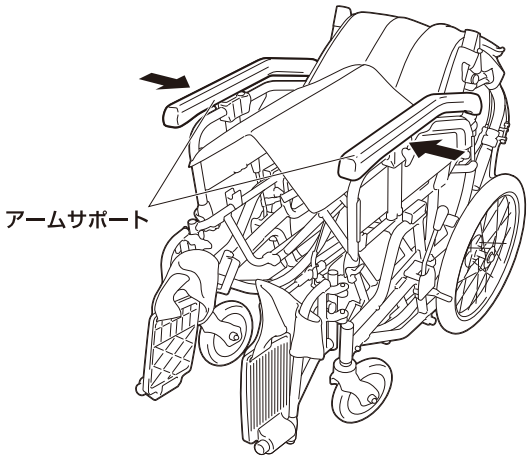


8 シートの前後を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



9 アームサポートを両側から押し、座アウターシートを折りたたみます。

＊車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

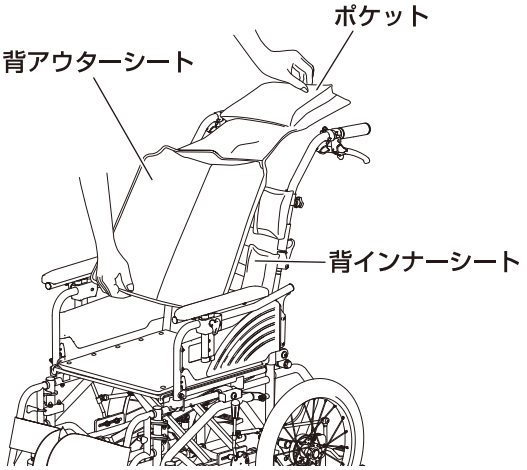


シートの取り付け・取り外し

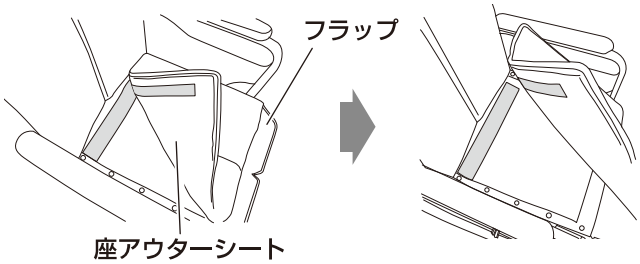
⚠注意	・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・使用者が乗車していない状態で作業してください。 ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● 取り付けかた

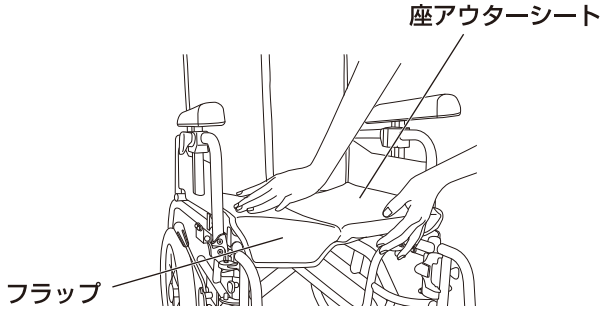
1 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせます。
背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。



2 座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせます。

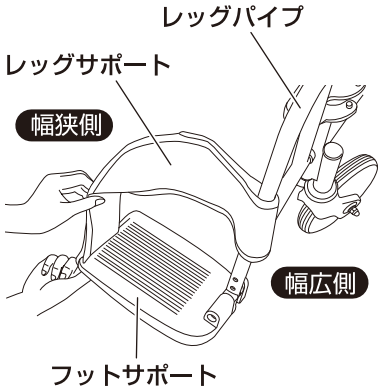


3 フラップ部を折り曲げ座インナーシート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。



4 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

5 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。



6 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。

7 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外しかた

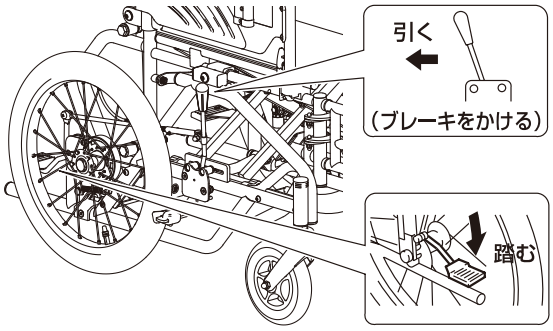
＊取り外しは、逆の手順になります。

乗り降りのしかた

⚠警告	・ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・乗り降り時は、シートを水平の位置にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。 ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。 ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。 ・フレーム、突起物に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

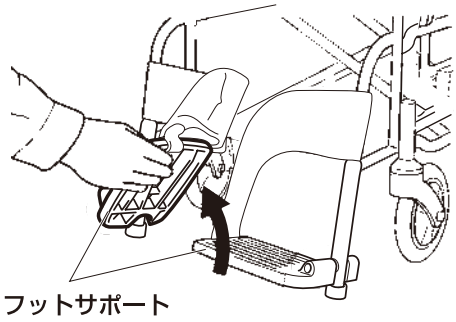
● 乗りかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。



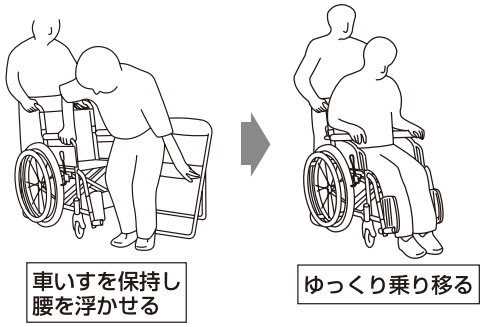
2 ティルトしている場合は、シート角度を水平にもどします。

3 フットサポートを両側とも上げます。
＊フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
＊上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。



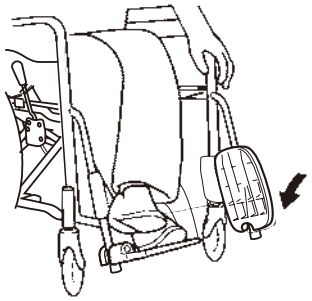
4 [MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL)]
必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」(P.13参照)や、「アームサポートフレームの跳ね上げ(ウイング機能)」(P.12参照)を行います。

5 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

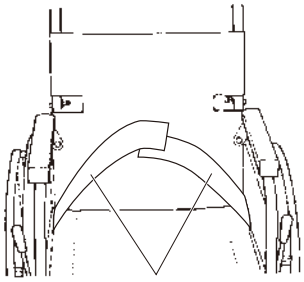


6 [MX-Ti DX、MP-TiF(HG/VL)]
「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ(ウイング機能)」を行っていた場合は、元に戻します。

7 フットサポートを降ろして両足を乗せます。



8 [MX-Ti DXのみ]
シートベルトを締めます。
＊体格に合わせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

アームサポートの跳ね上げ（ウイング機能）　MX-TiDX、MP-TiF(HG/VL)

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッド等と車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

⚠注意	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながる恐れがあります。 ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出さない位置まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

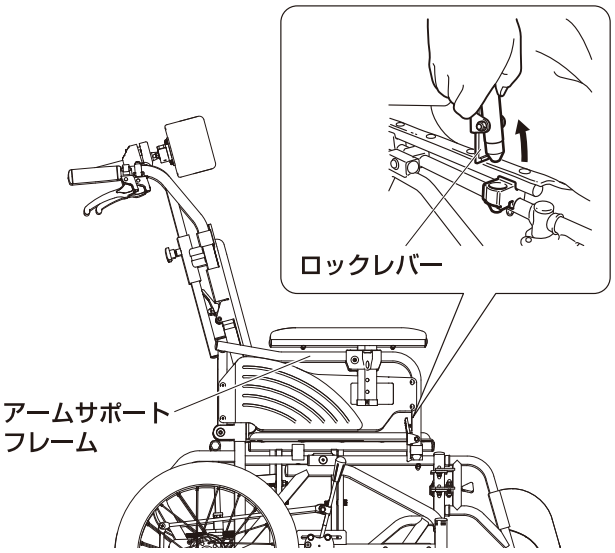
● 跳ね上げかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

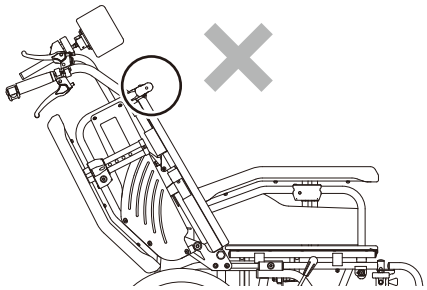
2 ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。

＊アームサポートフレームを　跳ね上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

＊ティルトした状態で跳ね上げると駐車用ブレーキが解除される場合があります。



⚠注意	アームサポートフレームの先端がバックサポート前面よりもはみ出ない位置まで跳ね上げてください。 はみ出ていると、移乗の際にけがをする恐れがあります。



● 戻しかた

⚠注意	アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

アームサポートフレームを下ろし、ロックさせます。

＊アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）

MX-TiDX、MP-TiF(HG/VL)

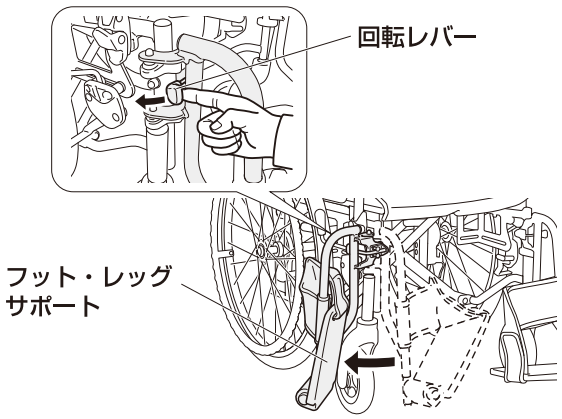
フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

⚠注意	フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

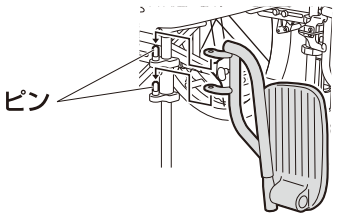
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。



3 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

＊フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

＊フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠警告	各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

アームサポートの高さ調節

MX-TiDXのみ

⚠注意	・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。 ・調節中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないよう注意してください。けがをする恐れがあります。 ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

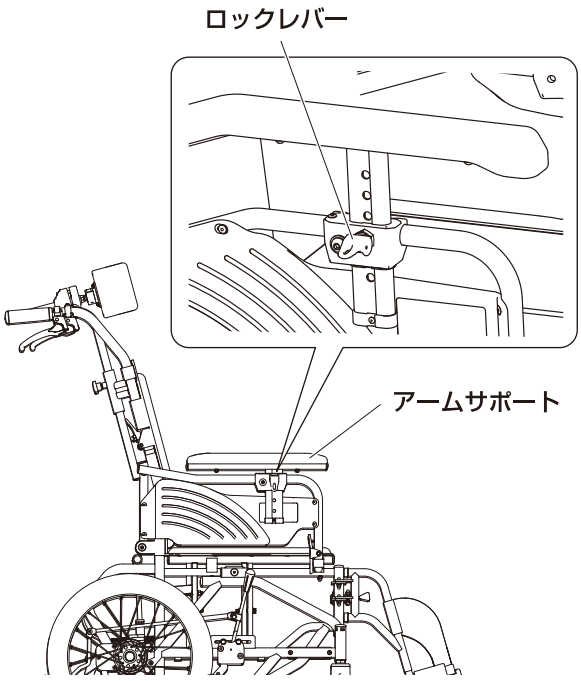
2 ロックレバーを引いてロックを解除します。

3 アームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーを押し下げます。

4 ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

＊反対側も同様に調節してください。

＊調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



フットサポートの高さ調節

⚠注意	フットサポートは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

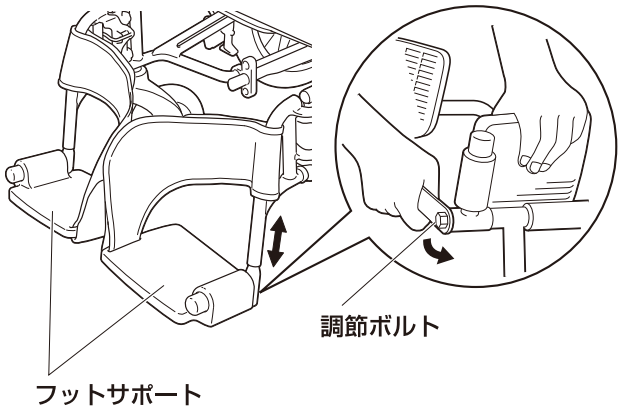
2 フット・レッグサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。

3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。

4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

＊反対側も同様に調節してください。

＊フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。



シートの角度調節（ティルト機能）

ティルト

⚠注意	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。 ・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

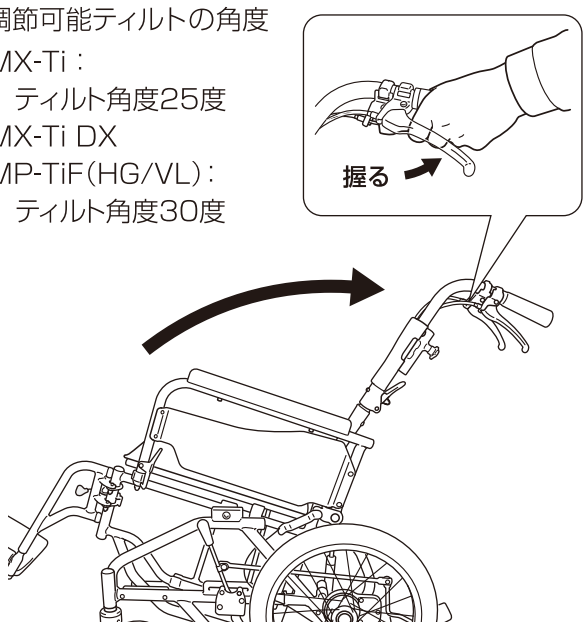
2 両側手押しハンドルグリップ上のレバーを握ります。
（ティルト マークが付いたオレンジ色のグリップです。）

3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。
シート角度が固定されます。

4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

＊操作は左右同時にゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。
＊使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

調節可能ティルトの角度
MX-Ti：
　ティルト角度25度
MX-Ti DX
MP-TiF（HG/VL）：
　ティルト角度30度



転倒防止装置の取り付け・取り外し

MX-Tiのみ

⚠注意	操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

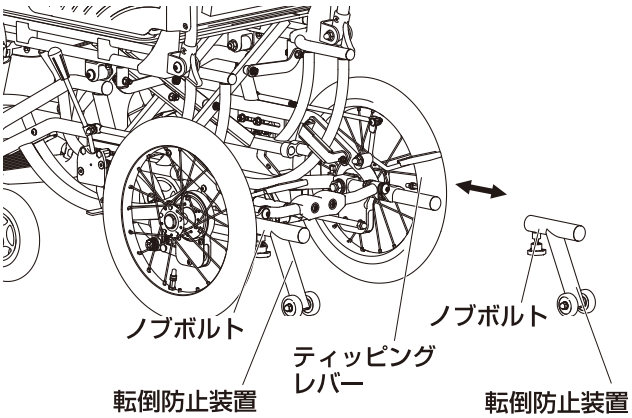
取り付けかた

転倒防止装置（2本）を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、ノブボルトを回して固定します。

＊転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のようにセットした状態でご使用ください。

取り外しかた

ノブボルトをゆるめ、転倒防止装置（2本）をティッピングレバーから抜き取ります。



ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節

● 取り付けかた

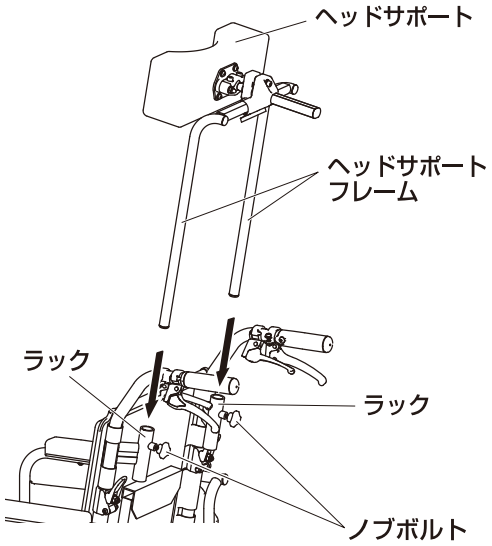
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 左右のラックにヘッドサポートフレームを差し込みます。

＊ノブボルトに当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。

3 ヘッドサポートの高さを使用者の頭の位置に合わせ、左右のノブボルトを締め付けて固定します。

＊ヘッドサポートとヘッドサポートフレームにガタつきがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。



● 取り外しかた

取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートフレームを上に持ち上げてラックから取り外します。

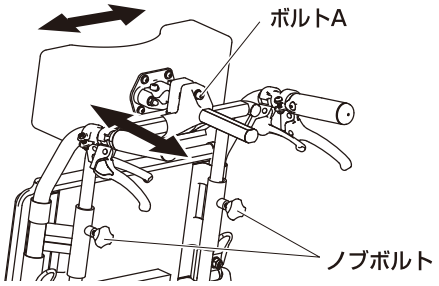
● 位置・角度調節のしかた MX-TiDXのみ

使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、および角度になるように調節してください。

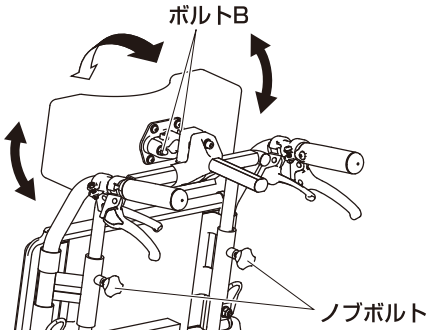
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

2 左右2箇所のノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートの高さを調節後、ノブボルトを締め付けてヘッドサポートフレームを固定します。

3 ボルトAをゆるめ、ヘッドサポートの前後および左右位置を調節します。調節後、ボルトAを締め付けます。



4 ボルトBをゆるめ、ヘッドサポートの角度を調節します。調節後、ボルトBを締め付けます。



＊ヘッドサポートとヘッドサポートフレームにガタつきがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。

バックサポートの張り具合調節 MX-TiDX、MP-TiF(HG/VL)

⚠注意	・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪のブレーキをかけます。

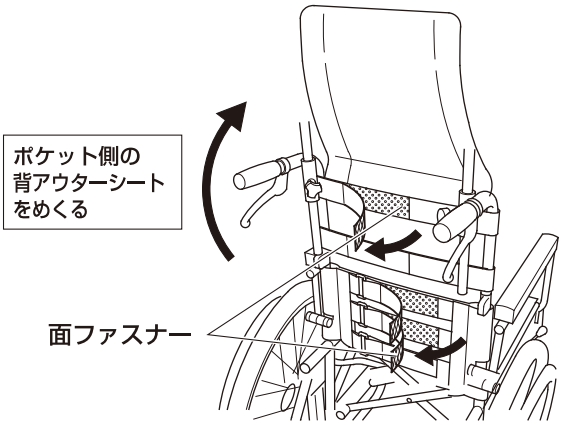
2 ポケット側の背アウターシートをめくり上げます。

3 面ファスナーををはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

＊手でバックサポートを押し、確実に固定されていて張り具合が適切であることを確認してください。

4 ポケット側の背アウターシートを元に戻します。

＊面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、充分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因となります。



＊過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
＊ 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

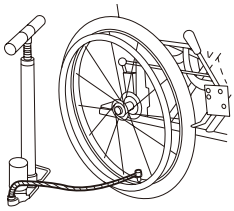
⚠警告	キャスタの旋回軸やキャスタ・主輪・ブレーキ等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。 締めつけトルク： 15.0～20.0N・m

・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

・

タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。（タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。）



・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
（地上より50mm以上あげてください。）

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上の販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締めつけても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落してください。

⚠注意	・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。 ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

●タイヤのお手入れ

・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。
水にぬれた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

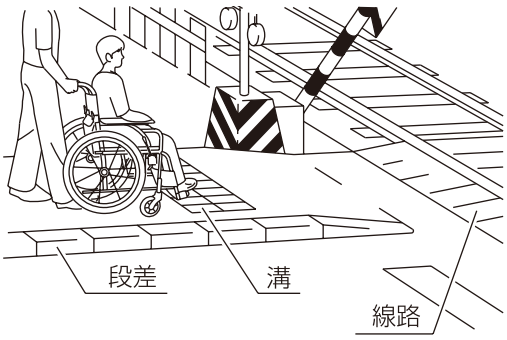
● 保管・収納について

・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のあたる場所には保管しないでください。

⚠注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

走行上のご注意

・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
・溝や踏切の線路による落輪、キャスタの挟み込みには充分注意してください。
・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



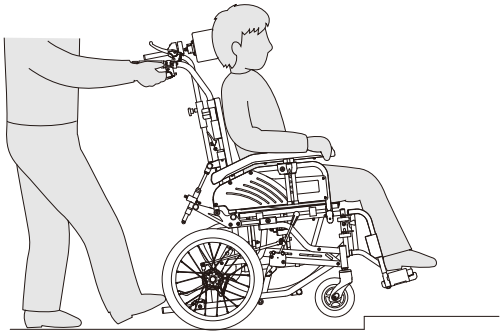
段の上がりかた

⚠警告	・ ティルトさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。 ・ 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

1 ティルトを元の角度に戻します。

2 [MX-Tiのみ]
転倒防止装置を取り外します。（15ページ「転倒防止装置の取り付け・取り外し」参照）

3 足元のティッピングレバーを前方に押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。

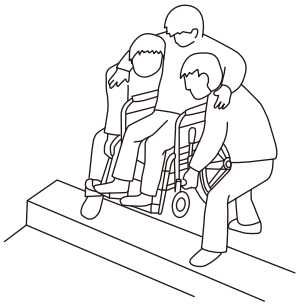


4 主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

5 [MX-Tiのみ]
上がり終えたら、転倒防止装置を取り付けます。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにします。



困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症　状	確認点	対　処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	主輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の主輪を適正な空気圧に調整してください。
	キャスタの回転に左右差がありませんか。キャスタ軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスタ、主輪の計４輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	主輪の空気圧は適正ですか。	主輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	主輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にきちんと当たってますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
主輪に空気がはいらない、すぐぬける。	適正な空気圧で補充してますか。	主輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）がゆるんでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブやムシゴムの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や主輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。
ティルトの動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

仕様

機種名	MX-Ti	MX-Ti DX	MP-TiF HG	MP-TiF VL
フレーム材質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
シート材質	ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル
アームサポート	ウレタン	ウレタン	ウレタン	ウレタン
サイドガード	樹脂	樹脂	樹脂	樹脂
グリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ
バックサポート	スリング	テンション	テンション	テンション
背折れ	あり　レバー式	あり　レバー式	あり　レバー式	あり　レバー式
フット・レッグサポートタイプ	固定	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）
フットサポート	軽量ステップ	ポスト式	ポスト式	ポスト式
キャスタ	6” ソリッド	6” ソフトフォーミング	6” ソフトフォーミング	6” ソフトフォーミング
タイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	あり	あり	あり	あり
ハンドリム	なし	なし	なし	なし
駐車用ブレーキ	標準大　ロックン付き	標準大　ロックン付き	標準大	標準大

単位：mm

機種名	MX-Ti	MX-Ti DX	MP-TiF HG	MP-TiF VL
駆動輪径	16インチ	16インチ	16インチ	16インチ
キャスタ径	6インチ	6インチ	6インチ	6インチ
前座高	435	460	460	460
後座高	435	460	460	460
シート奥行	400	400	400	400
シート幅	400	400	400	400
バックサポート高	440	440	440	440
フットサポート・シート間距離	360±20	360～420	360～420	360～420
アームサポート高	220	240/265/290/315	225	225
全高	990～1230	1020～1300	1000～1300	730
全幅	640	600	600	600
全長	970	1040	1040	1040
折りたたみ全高	700	730	730	730
折りたたみ全幅	350	355	380	380
折りたたみ全長	930	780（1020）	780（1020）	780（1020）
重量	18.5kg	21kg	19.8kg	19.8kg

*1：( )内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。
*2：ワンタッチソフトシート（背・座）を外したときのサイズです。

静的安定性試験方法（弊社ではJIS　T9201　10.1.2a方法によって試験を行っています。）
キャスタが交換可能な場合、推奨するキャスタ径は上記キャスタ径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ（UNF1/2-20山）仕様になります。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元
Wheel Chair MiKi 株式会社　ミ キ
〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

1611-004